

目 次

はしがき

序 章 交通インフラ政策に決定力のあるアクターは誰か ……………	1
1 交通インフラ整備をめぐる政治	1
2 問題の背景と所在	2
(1)新自由主義改革 (2)問題の所在	
3 日本とイギリスの交通政策を比較研究する意義	4
(1)なぜ交通政策に注目するのか (2)なぜ日本とイギリスの比較を行うのか	
4 本書の方法論と事例選択	9
5 本書の構成	11

第 I 部 新自由主義改革と制度・アクターのダイナミクス

第 1 章 新自由主義改革がもたらしたもの——本書の主張 ……………	17
1 本書の位置づけと分析の視点	17
2 新自由主義改革についての先行研究の検討	18
(1)改革そのものに焦点を当てた研究 (2)理論と比較分析への関心 (3)新自由主義改革を含めた政策展開を分析した研究 (4)先行研究の到達点と限界	
3 「改革の帰結としての制度」——本書の主張 1	27
(1)公企業の分割 (2)所有権のあり方	
4 「決定に関わる制度がアクターにもたらすリソース構成」——本書の主張 2	33
(1)決定の場 (2)メンバーシップ (3)選択肢の制約としてのリソース	
5 現代社会の認識——変化する政治過程とガバナンス論	37
(1)国家の空洞化？ (2)国家空洞化論への批判 (3)個別的な関心への深化	
6 制度と時間軸の重要性——歴史的制度論	44
(1)制度への着目 (2)歴史的制度論 (3)決定的分岐点 (4)長期的な視点 (5)制度とは	

7 アクターとそのリソースへの着目——事例分析の着眼点 50

(1)政策ネットワーク論 (2)アクターとリソース

第2章 日本とイギリスにおける鉄道と空港の発展 58

1 鉄道と空港政策の歴史を振り返る 58

2 日本における鉄道と政治 59

(1)日本の鉄道黎明期の軌間選択と政治 (2)日本の鉄道国有化 (3)戦後日本の鉄道

3 戦後日本の民間航空政策と空港整備 64

(1)航空政策の標準的枠組み (2)日本における民間航空輸送の誕生 (3)45・47体制による事業規制 (4)空港整備の制度

4 1970年代までのイギリス鉄道 72

(1)鉄道発明者としてのイギリス (2)企業集約と戦時体制 (3)イギリス鉄道の国有化と苦悩

5 中央政府中心のガヴァナンス時代のイギリス空港政策 77

(1)イギリスにおける民間航空産業の展開 (2)戦後イギリスの空港政策

6 制度比較と政治的文脈の整理——共通点と相違点 80

第II部 日本における交通インフラ整備政策の展開

第3章 整備新幹線スキームの形成過程 87

1 整備新幹線スキームはどのように形成されたか 87

2 決定的分岐点——国鉄改革 88

(1)国鉄分割民営化への道 (2)分割方法 (3)規制の体系

3 整備新幹線スキーム決定過程における制度, アクター 91

(1)全国新幹線鉄道整備法 (2)審議会 (3)政治過程におけるアクター

4 整備新幹線のスキーム形成過程 96

(1)運輸省試案 (2)第一スキーム形成過程 (3)第二スキーム形成過程

第4章 九州新幹線長崎ルート(西九州新幹線)の政治過程 115

1 西九州新幹線着工をめぐる地方とJRの駆け引きと政治 115

2 アクターの整理 116

3	整備新幹線計画の進展	118
	(1)第二スキーム策定 (2)佐世保寄りルート問題 (3)佐世保カット	
4	並行在来線問題①——不同意の貫徹と対立	124
	(1)並行在来線とは、沿線自治体とは (2)県と市町の対立	
5	並行在来線問題②——変わるゴール?	128
	(1)制度の再解釈への試み (2)三者合意から着工へ (3)部分開業後の課題と展望—— FGT 問題	
第5章	リニア中央新幹線整備計画策定の政治過程	136
1	リニア中央新幹線計画をめぐるアクター間関係	136
2	インフラガバナンスと新幹線鉄道計画	138
	(1)スキーム策定に関与するアクター (2)リニア中央新幹線着工認可までの政治・行政スキーム	
3	リニア中央新幹線の政治過程	140
	(1)リニア技術の確立 (2)JR 東海の自己負担による建設意思の表明まで (3)長野県内のルート選定 (4)中間駅の設置場所選定問題 (5)中間駅の建設費負担問題	
4	分析——民間優位の政治過程をどのように説明するか	154
	(1)ルート選定の政治過程 (2)中間駅の費用負担問題	
第6章	第7次空港整備五か年計画の形成過程	163
1	空港整備はどのように決まったのか	163
2	日本の航空政策の決定的分岐点	164
	(1)「86答申」による航空自由化 (2)改革のインプリケーション	
3	改革後のアクターとそのリソース	167
	(1)航空審議会 (2)与党議員, 地方自治体, 事業者	
4	第7次空港整備五か年計画	170
	(1)空港整備五か年計画の変化 (2)第7次空港整備五か年計画の策定	
5	7次空整における争点	173
	(1)中部新国際空港 (2)九州国際空港	

第7章 空港政策第三期の政治過程 184

——空港整備政策から空港政策へ

- 1 特殊法人改革と空港政策の転換 184
- 2 決定過程への参加アクター 185
- 3 事例①——新東京国際空港公団（成田空港）民営化 187
(1)政治過程 (2)政治過程の分析
- 4 事例②——関西空港と伊丹空港の統合問題 194
(1)政治過程の背景と論点 (2)討議の過程 (3)政治過程の分析

第Ⅲ部 イギリスにおける交通インフラ政策の展開

第8章 ブレア政権における鉄道と政治 213

- 1 ブレア政権の鉄道政策と再集権化 213
- 2 決定的分岐点——保守党政権のイギリス国鉄民営化 215
- 3 イギリスの鉄道政策におけるアクターとそのリソース 219
- 4 ブレア政権の鉄道政策 222
(1)政策転換の背景 (2)レイルトラック社破綻処理の政治過程 (3)2005年鉄道法による制度変化

第9章 ブレア政権による空港政策 234

- 1 ブレア政権の空港政策の特徴 234
- 2 決定的分岐点——新自由主義改革による変化 236
- 3 政策領域のアクターとそのリソース 240
- 4 事例分析——2003年航空白書の形成過程 242
(1)事例の全体像 (2)ブレア政権が目指した交通政策 (3)航空政策の提案内容とそれへの反応 (4)最終的な白書の内容

第10章 キャメロン政権の交通政策 252

- 1 キャメロン政権における空港と鉄道 252
- 2 キャメロン保守党と交通政策 254
(1)キャメロン政権とインフラ政策 (2)アクターとそのリソースの再確認

3	事例①——ロンドン・ヒースロー空港の拡張問題	258
	(1)労働党政権による空港政策と保守党の反応 (2)保守党の政策転換 (3)「ハブ空港」への議論集約 (4)ダイブリース委員会の設置 (5)最終決定までの過程	
4	事例②——高速鉄道新線建設(HS2)の政治過程	267
	(1)奇妙な連合と保守党案の丸のみ (2)連立政権発足と最終決定までの過程	
終章 歴史的制度論と比較分析から見たインフラ政策 …………… 281		
1	本書で得られた知見と今後の展望	281
2	各事例における知見の整理	282
	(1)日本の事例 (2)イギリスの事例 (3)日英比較の視点	
3	新自由主義改革による制度配置とその後の政治過程	288
4	今後の研究に向けて——交通インフラ政策の新たな展開	290
参考文献 293		
あとがき 313		
人名索引 317		
事項索引 319		